Date No.

古墳がすごいぞ!! 群馬県

古墳とは

◎およそ3世紀から7世紀に築かされた墳丘状の墓のこと。当時の有力者が葬られたと考えられている。

◎古墳が築かれた、およそ400年間を古墳時代といい、一般的に前期(3〜4世紀)、中期(5世期)、後期(6世紀)の3時期、ないし終末期(7世紀)を加えた4時期に区分される。

・前期…古墳に埋葬されたのは司祭的なリーダーなど、極めて限られた存在だったよう。副葬品には銅境や玉類など祭器的なものが目立つ。

・中期…被葬者は武人などが主となり、武器や武具などの鉄製品が副葬品として納められるようになる。
また、墳丘の規模は古墳時代を通じて最大級となる。

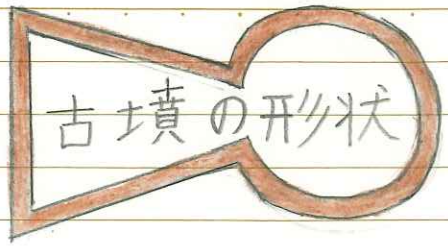
・後期…小規模な古墳が一定の範囲に密集して築かれる群集墳が現れ、横穴式石室が増える。副葬品としては須恵器や馬具、装身具などが登場。朝鮮半島から渡来した文化の影響も色濃くなる。

・終末期…被葬者は皇族などに限られ、墓室内に高度な技術の壁画などが描かれたり、遣唐使がもたらした文物なども納められるようになる。

□古墳は、墳形と埋葬施設に加え、濠や葺石などの付帯施設で構成される。これらの要素が時代や地域、規模によって様々に組み合わされ、一つとして同じ古墳はないといえる。

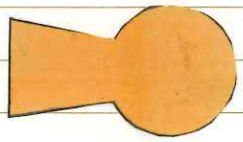
(大阪府・大仙古墳)

Date　　No.

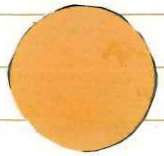


◎基本的な墳形は前方後円墳、円墳、方墳、前方後円墳とされる。これ以外にも帆立貝型古墳、上円下方墳、双円墳など、バリエーションに富んだ、様々な形がある。

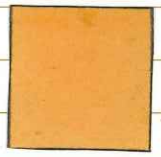
・前方後円墳‥‥円形と方形の墳丘が結合した日本独自の形。墓の中心は円形部。中期には、くびれ部に造り出しが付設されるものも多い。



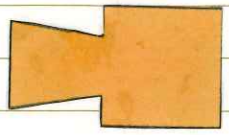
・円墳‥‥墳丘の平面形が円形のもの。弥生時代から古墳時代終末期まで、築造された。時代が幅広く、全国に分布している。



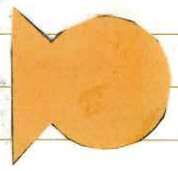
・方墳‥‥墳丘の平面形が方形のもの。全古墳時代を通じて造られた。規模の大きいものは関東と近畿で見られる。



・前方後方墳‥‥方形の墳丘に方形の墳丘が付いた形。全国的に広く分布するが、前方後円墳ほど巨大な規模のものは少ない。



・帆立貝型古墳‥‥前方後円墳の前方部が小さく、平面形が帆立貝に似ている。方形の墳丘は祭祀の場だったという考えもある。



・双円墳‥‥大小2つの円墳が接続している形。代表例は大阪府の金山古墳。大きさが均等の円墳が接続している例は少ない

Date　　No.

・上円下方墳…2段築成で下段が方形、上段が円形の古墳。古墳時代終末期に築かれた。明治、大正、昭和天皇の陵墓もこの形。

・八角墳…墳丘の平面形が八角形のもの。全国でも数は少なく、大和地方のみで見られる。大王専用の形式と考えられる。

・双方中円墳…円墳の両脇に、対をなす2つの方形の墳丘を付けた形。全国的にも極めて珍しい形の古墳といえる。

古墳の副葬品

◎副葬品は、被葬者のことを知る重用な手がかりになります。埋葬されているのがどんな人物でどの位の地位があるか、ヤマト王権とどのような関係を持っていたのかなどを知る大きなヒントになります。

副葬品は、被葬者が身につけていた装身具や、武具や馬具、ヤマト王権からおくられたと思われる金同鏡など、様々なものがありました。これらは被葬者の生前のことを知る上でとても重要です。

出土した銅鏡の背面（実際の大きさ）

〔前橋市教育委員会文化財保護課（い・せ・きワールドin前橋2020）より〕

・金同金竟…金同鏡は円形で、顔が映る面を「鏡面」、文様がある面を「鏡背面」という。それぞれの鏡には鏡背

面の文様の違いによって名前がつけられていて、例えば「神獣鏡」というと、神と獣が描かれたものとわかります。
ふちの断面が三角形になっている金同鏡「三角縁神獣鏡」はその代表的なものです。この三角縁神獣鏡は中国から授けられたと考える説と国内でつくられた鏡と見る説があり、議論の的になっています。

・装身具…… 装身具は呪術的な意味を持つシンボルとして、縄文時代から古墳時代にかけて広く普及し、指輪、耳飾、腕輪、首飾、足飾など多数の形状の装身具が各地の墳墓より出土している。

□勾玉と首飾り
古墳時代には権力者のシンボルとして祭紀などで一重、または二重巻きにして装着されたことが埴輪によってわかっている。
（写真……調べる学習百科「古墳のなぞがわかる本」監修：河野正訓
発行所：株式会社岩崎書店）

・武具・馬具……5～7世紀の古墳には、副葬品に馬具を含むものが多い。

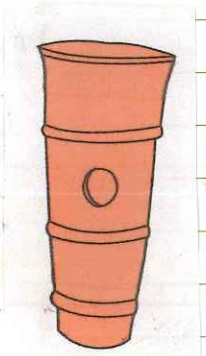
□鉄剣
稲荷山古墳（埼玉県行田市）から出土した国宝の「金錯銘鉄剣」には表と裏に合わせて115字が金で刻まれ、雄略天皇（ワカタケル大王）のことが書かれています。

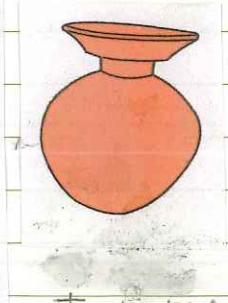
埴輪とは

◎古墳の上やまわりに置かれた土の焼き物を「埴輪」といいます。
埴輪は3世紀後半から6世紀までつくられました。
全ての古墳に埴輪が置かれていたわけではありませんが、

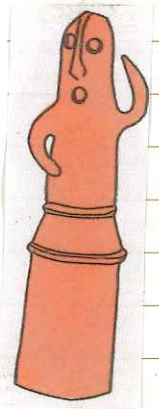
大きな古墳には、たくさんの種類や数の埴輪が置かれました。

・円筒埴輪‥‥弥生時代に墓に供えられていた壺をのせる台が変化したもの。被葬者を守り、聖域として、まわりとは、きり区別するために、古墳のふちなどをめぐるように置かれました。初期につくられたほとんどがこの円筒埴輪で、被葬者の身分の高さに応じて、その大きさも区別されていました。
　円筒埴輪と同じように古墳のふちをめぐるものとして、「壺形埴輪」もあります。

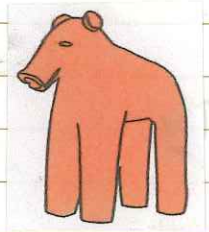

円筒埴輪


壺形埴輪

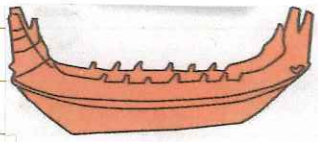
・形象埴輪‥‥円筒埴輪で区切られた内側や、造出などに置かれたのが「形象埴輪」です。形象埴輪は、建物の形をして墳頂部などに置かれた「家形埴輪」、被葬者や祭祀を行う巫女などを表す「人形埴輪」、いろいろな動物の形をした「動物埴輪」、武具や儀礼に使う道具の形をした「器財埴輪」などに分類できます。


人形埴輪

器財埴輪


動物埴輪

家形埴輪


舟形埴輪

□形象埴墳は、現存しないこの時代のものを研究する上でとても貴重です。例えば、家形埴輪は当時の建物の構造を、人形埴輪は出土した装身具がどのように身につけられたものかを示します。
馬の埴輪からは、出土した馬具の使われ方がわかります。

Date　　No.

【君羊馬の古墳】

◎一般的に墳丘の長さが160m以上の古墳を大型古墳、もしくは巨大古墳と呼ぶが、その数は全国に56基とされている。
巨大古墳は近畿地方に集中しているが、関東周辺でも茨城県と山梨県にそれぞれ1基、君羊馬県に2基分布している。

■君羊馬の古墳の特徴 ※1

1、昭和10年の全県域の調査により8,423基の古墳の存在が明らかになりました。全体では1万基以上が作られたと想定されています。
2、平野部の各地に100mを超える大型の古墳が作られました。
3、東国(東海・甲信・関東地方)では、圧倒的な質と量を誇ります。

■君羊馬のはにわの特徴 ※2

1、君羊馬は、「埴輪王国」と呼ばれ、日本における埴輪石研究の「メッカ」とされています。
2、唯一の国宝埴輪である「武装男子立像」は、大田市飯塚町から出土しました。
3、国宝・国指定重用文化財の埴輪全42件のうち19件(45%)が君羊馬県から出土している。

※1・2 https://www.pref.gunma.jp

古墳時代の君羊馬ー東国文化の中心地ー群馬県より

[写真：調べる学習百科 古墳のなぞがわかる本
監修 河野正則 発行所 株式会社岩崎書店]

Date　　No.

前橋の古墳

◎大室古墳…国指定史跡の前方後円墳を中心に公園として整備

◎総社古墳群…古墳時代後期の墳墓が集まる県内最大級の古墳群

・引用文献
「関東古墳探訪ベストガイド改訂版」
2019年8月30日第1版
著者・古代浪漫探究会
発行者・メイツ出版株式会社

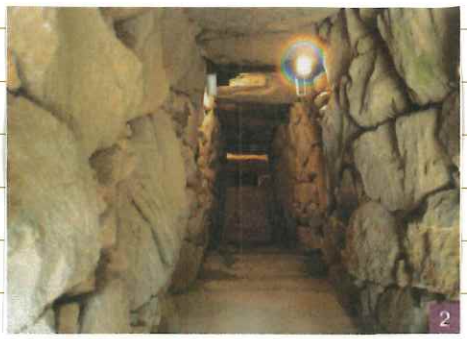
■大室古墳群

大室古墳群は、前橋市の東郊外、赤木山南麓のほぼ中央の丘陵性台地にある。南から前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳という、国指定史跡の3つの前方後円墳を中心に、円墳など多くの古墳が点存している。

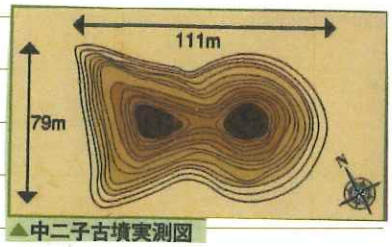
（M・1号墳は帆立貝型後円墳。盾持人物埴輪や形象埴輪が多数出土している。）

古くから調査が進められてきた古墳で、昭和53年(1978)には前二子古墳と後二子古墳の石室が開かれた。また、この後、日本で初めて西洋の科学的な方法で調査され、広く国内外にその存在が知られるようにもなっている。

・中二子古墳中堤の埴輪列



・前二子古墳の復元石室



▲中二子古墳実測図

DATA

◆所在地　前橋市西大室町
◆墳　形　前方後円墳(中二子古墳)
◆規　模　全長111m
後円部径66m、高さ10.5m
前方部幅79m、高さ10m
◆出土品　円筒埴輪、形象埴輪

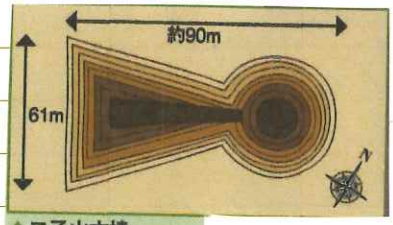
Date　　No.

総社古墳群

総社古墳群は、前橋市の北西にある前橋台地上の平坦地に分布している。古墳時代の後期から終末期(6〜7世紀)の古墳があり、特に7世紀代のものには県内最大級の古墳が集まっている。
現在、大型の古墳としては、二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳、王山古墳などが残っている。これらは全て横穴式石室をもち、石室の中に入ることができるものもある。

(遠見山古墳は6世紀初頭の築造と推定される前方後円墳。全長80mほどで、埴輪の破片が多数出土した。)

古墳群西側にある山王廃寺は、7世紀後半に創建された県内最古の寺院の一つ。寺院を建てた豪族の墓が総社古墳群ではないかと考えられ、古墳と古代寺院との密接な関係が示されている。



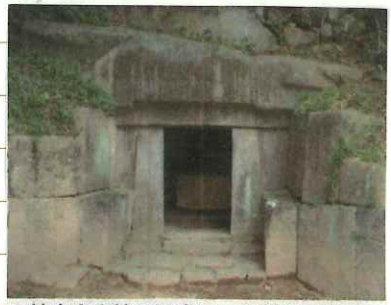
▲二子山古墳
(復元図より作成)

DATA

◆所在地	前橋市総社町総社
◆墳　形	前方後円墳(二子山古墳)
◆規　模	全長約90m 後円部径44m、高さ7.5m 前方部幅61m、高さ8m
◆出土品	横穴式石室×2、頭椎太刀刀子、勾玉、耳環、鈴釧、鉄鏃、須恵器

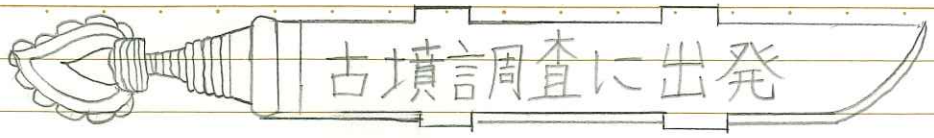
↑

全て二子山古墳。墳丘は2段築造で、前方部が後円部を上回る規模。石室は前方部と後円部に一つずつあった。国指定史跡。



▲蛇穴山古墳の石室は、石材加工技術の優秀さを物語る

Date No.



古墳調査に出発

最近テレビで群馬県渋川市の金井東裏遺跡で発見された、「ヨロイを着た古墳人」を放送していました。
(2020年8月1日TBS 世界ふしぎ発見！日本のポンペイ!?
ヨロイの古墳人が語る古代群馬の謎)
この番組は2012年11月に渋川市で古墳時代の6世紀に火山の噴火により埋っていた古墳人が発見されたものでした。その古墳人はヨロイを着ている姿で発見されるという、とても珍しい世紀の大発見という番組でした。
また新聞でも群馬の古墳のことが載っていました。この記事は前橋市の総社古墳群の事が書かれている記事でした。(上毛新聞2020年8月4日)この自由研究を始めるきっかけは最近群馬では古墳時代の事が多く取り上げられ歴史的大発見により古墳時代に注目が集まっている事を知ったからです。
古墳時代を調べていると実際に自分の目で古墳を見たくなり、今回古墳の調査に行く事にしました。場所は新聞で取り上げられた総社古墳に行く事にしました。

◎調査地…前橋市総社町の総社古墳群。
今回の調査は「総社二子山古墳」・「宝塔山古墳」・「蛇穴山古墳」にしました。

◎調査目的…古墳の種類、時期、規模を調べる。
石室の様子を調べる。

■ 総社二子山古墳

・形状…前方後円墳 ・時期…6世紀後半
・規模…全長約90m

感想 一周回るのに時間がかかりました。
そして大きい古墳だと思いました。

・石室の様子

入口が狭くて中に入る事はできませんでした。

感想 小さめの石室だと思いました。

前方部石室の入口

石室内部

・石室の様子

感想 入口が広く、高さも僕が楽々立って入れる高さでした。
家形石棺がありました。
とても大きく重たそうでした。

石室の入口

石室内部

■ 蛇穴山古墳（じゃけつやま）

・形状……方墳 ・時期……7世紀後半
・規模……全長44m

感想 よく整備されている古墳でした。
近くの宝塔山頂上から全体の感じも見れました。

・石室の様子

感想 内部壁の石がまるでコンクリートのようでした。
棺台もきれいでした。

石室の入口

石室内部